

唐丹の民話・11話「片川地区」

角がら洩の名の由来



平成18年10月

唐丹・愛ちゃんネットパソコンクラブ

目 次

—角がら淵の名の由来—

- 唐丹民話の再話著作にあたって・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
1. 蜘蛛の「エサ獲り」作戦・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
2. 勝った！村人の^{ひらめ}閃き・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
3. 角がら淵は、今いずこ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

唐丹民話の再話著作にあたって

唐丹公民館の自主パソコンクラブ（設立：平成17年6月／名所：愛ちゃんネットクラブ）では、パソコンによる文章作成を習得した証と民話を伝承する狙いを含めて民話の再話著作活動を実施しました。

文章作成の教材は、釜石民話の会（平成2年発足）の機械紙「釜石民話」を活用させていただきました。

この釜石民話の中から、唐丹に関り、かつ再話できるものを選び、その根底にあるものを変えないことを基本に「見やすく」、「読みやすく」、「分かりやすく」するために小見出しを付け、写真や絵図などを挿入。できるだけ、関連する歴史や実話を織り込みながら作成しました。

いつの日か、この冊子が誰かの目に留まり、唐丹にもこんな話があったのかと唐丹の「いにしえ」に想いをはせる一助になれば幸いとおもいます。

おわりに、この活用させていただいている民話は、釜石民話の会会員でありました唐丹町片岸の加藤ムツさんが採録（聴き取り）したものであり、第1集から第6集に掲載の民話の数は92編を数えます。

加藤ムツさんの民話を伝承したいという、この熱意と努力に敬意を表するとともに、故人となられました加藤ムツさんのご冥福をお祈り申し上げます。

なお、この物語の「角がら淵の名の由来」は釜石民話第4集「角がら淵」を再話著作したもので、その原文は次のとおりであります。

昔むかしの話です。鮭川の上流に小さい沼がありました。

ある日、その沼のほとりの大きい石に薪を背負った一人の村人が、タバコに火をつけて一服しておりますと沼から大きな、大きな蜘蛛が出てきて、腹から糸を出しては、村人の背負った薪に糸をつけました。

糸を出しては薪につけると云う作業を始めたのです。「はて」と村人は考えて、これは蜘蛛が「俺を沼にひきづりこむのだな」と思って、沼のほとりに動物の角のように枯れて白くなった木の枝に、背の薪に張った糸をとっては張り直す事を急いでやりました。案のじょう糸を張り終った蜘蛛は沼の真中にとびこみました。それと同時に村人は反対の方ににげました。

蜘蛛の後からガラガラと大きな音とともに、角がらのような枯れた木の枝が沼に入ったと云うことです。それから、その沼を角がら淵と云うようになりました。しかし現在はその沼もうまり家も建ち道路もできて、なくなりました。

ドンとハレー
岩沢清志氏の話

角がら淵の名の由来の

注・角がら＝木が枯れ白くなったもので、動物の骨の様にも見える。

1. 蜘蛛の「エサ捕り」作戦

その昔むかしは片瀬川。そこに架かる橋は御手洗（みたらい）橋。
今は、片岸川、ふだんは鮭川とよばれています。



(片岸川)

そのきれいな流れの上みの方に、小さな沼があり、淵（淀んだ所）には、「角がら」も見られ、寂しいところでもありました。



(角がら淵)

ある日の夕方、タキギを背負って、家に帰る村人が、この淵近くの休み石に、腰をおろし、煙草をふかし一服していました。

その時、どこからともなく、すうーっと一匹の大きな蜘蛛が現れ、村人の背負っているタキギに登って来たのです。

「大きな蜘蛛だなー」と思って見ていると、蜘蛛は腹から糸を出し、背負っているタキギに、その糸をつけ始めたのです。



(すうーっとあらわれた蜘蛛)

2. 勝った！村人の閃（ひらめ）き

それを見た村人は、これは怪しいぞ……。 「この大きな蜘蛛が、おれをこの沼に曳きずり込んで、喰おうとしているんだ」と思いました。でも、あまりにも蜘蛛が大きく、怖くて逃げられません……。



(静まり返っている沼)

逃げるには、どうしたら良いかと一生懸命考えました。タキギにつけられた糸を、淵のほとりの「角がら」に一本一本つけ変えることだと閃き、こっそりと、その糸をつけ変えました。

それに気づかない蜘蛛は、村人が背負っているタキギに糸をつけ終ったと思い、一本の太い糸を引っ張るように、沼の真中に飛び込みました。

その蜘蛛の後を追うように、糸をつけ変えられた「角がら」も、ガラガラと音たて、渦を巻き、沼に吸い込まれていきました。

その時をドキドキしながら待っていた、村人は、さっと身かわし、蜘蛛の「エサ捕り」から逃れ、大急ぎで家に帰りました。



(渦を卷いた沼)

3. 角がら淵は、今いずこ

このことから、この沼を誰いうとなく「角がら淵」と言うようになりました。今、この沼のあたりには、道路が出来、家が建ち並び、沼の面影もないそうです。

どんとはれ

◎釜石の民話・第4集：角がら洩

○話し手：岩沢清司さん／片岸

○聴き手：加藤ムツさん／片岸

●再話著者：中山志恵／小白浜地区（唐丹・愛ちゃんネットパソコンクラブ）

●写真撮影者：新沼 裕／本郷地区（唐丹・愛ちゃんネットパソコンクラブ）

●校正指導者：新沼 裕（ 同 上 ）

●再話完成：平成18年10月